



発行：青森地区保護司会  
青森市長島1丁目3-25  
青森保護観察所内  
TEL 017-776-6418  
編集：広 報 部

### 更生保護の今後について



青森地区保護司会

会長 天内 修

平素、青森地区保護司会の「社会を明るくする運動」はじめ更生保護事業に対し、ご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

保護司の皆様はすでにご存知のように、次年度から一部の対象者に対して、特別遵守事項として『社会貢献活動』、平成28年度からは、薬物事犯者へ『刑の一部執行猶予』が付されることになり、その一部執行猶予期間中が保護観察期間とのこと。社会貢献活動については、保護観察官と活動先(場所)との協議によりますが、担当保護司や複数の保護司と一緒に活動することになります。または、更生保護女性会やBBS会の手を借りながら一緒に活動することも考えられます。このことについては、今後も研修が重ねられることと思います。

さて、ここ数年、犯罪や非行は減少傾向にあります。保護観察対象者も同様であり、特に少年の対象者



挿絵 「晩秋の八甲田」

第2分会 遠間 善弘氏

が減少しています。が、その保護観察対象者の環境や内容はとても複雑になり、一部には発達障害や痴呆など何らかの障害のある対象者が増えているように感じられます。昔は、3世代4世代同居の大家族の中での見守り、自治(町内)会など社会内での見守りができていたように思いますが、以前と違ってほとんどの家庭が核家族となり、地域社会での人間関係の希薄化が進んでいることも関係しているのかも知れません・・・障害のある対象者に対しては、担当する保護司の不安を解消することが大事で、これらに関する研修も必要と考えます。

さらに、地区保護司会として、今後、進めていかなければならないことは、更生保護と保護司をもっと国民に知っていただくかなければ、ということだと思います。国民から認知されることによって、社会を明るくする運動をはじめとする広報啓発活動、新任保護司の発掘等も、今以上に活動しやすくなると思います。更生保護が社会生活の中で、必要で大事なものは誰もが認めていること、ただ、具体的な内容や活動を知らない人がほとんどです。保護司や更生保護関係者が如何にして、国民に発信するか、皆様の知恵知識を拝借できればと思っております。

皆様の末永いご健勝を願います。

### 交流会

9月17日岩手県滝沢市保護司協議会・滝沢市人権擁護委員会・依願で、青森地区保護司会が交流会を開き、更生保護施設あすなろ、地区更生保護サポーターセンター、公共施設での対象者面接、就労支援、人権擁護などについて、話し合われました。また、お互いの社明運動の具体的内容の発表など約1時間半の交流会でした。滝沢市は、平成12年に人口5万人を達成し、人口日本一の村となり、本年1月に市制施行がされました。



# 家庭・地域・学校の役割

## 非行に走らせない、立ち直らせる ～ 3 人のパネリスト ～



### 第 64 回 社会を明るくする運動

### 青森地区強調月間 横内中学校にて開催



毎年 7 月は「社会を明るくする運動」の強調月間で青森地区では、毎年学校との連携事業として会場を管内中学校輪番により開催しています。

今年の第 64 回 社明運動は犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラは、青森市横内中学校を会場に 7 月 5 日午後 1 時より、生徒数 282 名、



保護者、地域関係者・保護司を含め約 400 名の参加者で開催されました。はじめに石岡校長に青森地区推進委員長の鹿内青



写真左からコーディネーターの田澤直子氏（横内中）、パネリストの豊島美佐子氏（青森警察署）、戸誠司氏（少年警察ボランティア）、佐藤善一氏（保護司）

森市長が谷垣法務大臣メッセージを伝達・挨拶後、ミニ・パネルディスカッションが開催されました。テーマは「非行に走らせない、非行から立ち直らせる」家庭、地域、学校の役割からコーディネーターは横内中の田

澤直子先生、パネリストとして、青森警察署生活安全課少年補導職員主幹の豊島美佐子氏、青森地区少年警察ボランティア連絡協議会長の戸誠司氏、青森地区保護司会から、2 分会の佐藤善一保護司が参加しました。パネルディスカッション終了後は、全校合唱も披露され、生徒代表からお礼の言葉、青森地区保護司会の天内会長が閉会の挨拶で終了となりました。



参加保護司の皆さん

# 「社会を明るくする運動」に参加して

## 横内中学校 生徒の感想文

生徒代表の感想文を掲載させて頂きました。

1年 関野 望美



私は講話を聞いてすごく印象に残ったのが「日常の小さな事から非行や犯罪に進行していく」ということです。勉強が思うように解けない、親や兄弟とけんかしてしまったりなど、いろいろな「小さなこと」が原因でそのような行為に及んでしまうということがとても心に残っています。やはり、横内中でも無断外泊や深夜の公園で遊んでいる人などの話はよく聞きます。自分の将来を考えられない人なんだなとも思っています。ですが、「想像力がない人がそういう事をする」という話も講話の中にあつたのでやっぱりなと思う部分もありました。最近、学校や部活や塾などが多くストレスをかかえやすくと私は思うのでつかれたら休息をとったり自分なりのストレス発散法を見つけたりして、自分から悪い方へ行ってしまうないように考えて行動したいと思いました。

2年 館山 涼音



私が今回「社会を明るくする運動」に参加して思ったことは、小さな約束事を守っていくことがとても大切だということだと思います。どんなに小さな約束でも破ってしまえばそこから非行が始まっていくんだということを感じました。豊島さんが「想像力がないと犯罪をおかす」とおっしゃっていました。とても共感できました。「今」だけではなく、将来を見て生活することが大事なんだと思いました。それと「自分の気持ちがかれば、相手の気持ちがかかる」ということにも共感できました。私は今まで相手の気持ちを考えるように意識してきましたが、これからはまず自分の気持ちを理解した上で相手の気持ちも理解したいと思いました。これから夏休みに入りますが、地域の方々などに見守られていることや、協力していただいていることを忘れず、感謝して、自分も非行しないようにし、周りの人も止めてあげられるようにして、少しでも地域に貢献したいと思いました。



3年 小田島 里奈



今日の講話を聞いて印象に残ったことは、一戸さんが言っていた、地域の子供は皆宝だということ。いつも誰か大人が子供達のことを見ていてくれる、見守ってくれていることを改めて感じました。あれともう一つは、豊島さんが言っていた、想像力のない子供が犯罪をおかしやすいということです。これは、先のことを考えずにどうなるか想像していないから、その場で問題を起こしてしまうんだなと思いました。絶対にないと思うけど、もしも友達がそっちの方にはしってしまったら、ちゃんと止めてあげられるようになりたいと思います。そして、自分自身が一番気をつけて生活することが大切だと思います。今日の「社会を明るくする運動」は、このようなことを改めて考える良いきっかけになったので、よかったです。



# 工夫いっぱい 分会だより

## 第1分会

### 充足率向上に真剣に取り組まなければならないと強く感じて・・・

先般の役員会において、各分会にも保護司候補者検討協議会設置の議案が議決されました。近年、保護司の充足率の低下がいわれている折、「ここまできたか！」の感を強く致しました。

保護司の委嘱を受けて八年目を迎える益々、保護司としての任務を全うすることの難しさ、辛さ、力の至らなさを痛感しているところです。一方、社会一般には、ボランティアで、この社会に無くてはならない極めて重要な、且つ大変な仕事をしている。ということがへの認知度が極めて低いということがございます。時には、社会的にそれなりの地位にある人でさえ、保護司が具体的にどんな仕事をしているのか全く理解していないという人にも出会い、嗚然とさせられることがございます。

私の後輩に、人間的にも、性格的にも、この人ほど保護司に適任な人はないという人がおりました。ある日、電話をしました。私としては最低でも「少し時間を下さい」とか「少し考えさせて下さい」という返事を期待していたのです。その間になんとも攻め略してやるといふ自信のようなものもありました。しかし、その場で、あっさりとして断られてしまいました。理由は、「以前、ある会合で保護司をしておられる方と話をする機会があった。」

その方の話によると、保護司というのは、苦しく、辛い、大変な仕事だということであった。この年になって、今更、そんな大変な仕事をする気にはなれない。」とのことでした。

保護司の存在は元よりのこと、保護司が色々な場面で御苦労されていることを社会一般に理解して貰うことは極めて重要なことであることを充分認識しているとしても、とてつもなく大きなジレンマに陥った心境であった。

第一分会としてもここ数年の内に大先輩の退任が続く見込みです。この大きなジレンマに真摯に対峙しつつ、充足率向上に真剣に取り組まなければならないと強く感じておるところです。

【山形 民雄】

## 第2分会

### 大きな功績を残された佐藤善一さんと神和子さんが任期満了で退任

当分会の主要行事、第64回社会を明るくする運動2分会ミニ集会を紹介いたします。今年度も青森市立筒井中学校様の御理解、御協力の下、筒井中学校、筒井小学校、筒井南小学校三校合同社明ミニ集会を開催しました。各校ジャンプチームと保護司15名、筒井交番佐々木所長様、地区保護司会天内会長の出席を頂き、始めに筒井中、出町幸太郎校長先生に御挨拶をお願い申し上げ、続いて参加者全員が自己紹介した後、講話を拝聴しました。「日々思うこ

と」と題し、当分会の川村一夫先生が長年の教育者としての経験から最近の社会状況や子供たち、若者について感じていること等をわかりやすく、楽しくお話下さいました。未来を担う子供たちを思う先生のお気持ちがいひひしと伝わりました。

次にビデオ「心のリレー」を鑑賞。保護観察を受けながら新聞配達をして働く少年が信じた先輩に一度は裏切られたがやがて真の友情を得て更生してゆくお話です。小学校のジャンプチームの子どもたちも真剣に鑑賞していたのでとてもうれしく思いました。その後は皆でお弁当を頂きながら談笑し終わりとなりましたがこのミニ集会を通して子供たちが万引きやいじめ等の非行をしない、見逃さない強い心・勇気を持つて成長してほしいと願っています。続いて「2分会退任保護司慰労祝賀会」について御紹介します。今年度8月末を持って佐藤善一保護司さんと神和子保護司さんが任期満了で退任なさいました。大きな功績を残されたお二人に敬意を表しさやかな慰労祝賀会を催させて頂きました。分会ほとんどの保護司が出席しとても楽しい祝賀の会となり、おふたりの貴重な体験談などもお話下さり改めてお礼申し上げます。ほんとうにありがとうございます。

【塩原 誓子】

## 第3分会

### 「万引き8年連続ゼロ」を達成した荒川中学校

それは1本の警察からの電話でした。「実は、荒川中学校が、5年連続万引き0を達成しましたので、表彰したいと

思います」電話を受け取った先生は、校長先生をはじめとして、先生方に伝えました。「この学校、5年連続で万引き0なんです」と。みんなびっくりしました。

この偉業をどのように荒川中の伝統としていくか、生徒指導部・特別活動部を中心に考えました。意見を交わした結果、2つのことに取り組むことになりました。

1つめは、情操教育をし、学級や学年の掲示物で「心」を育てること。もう1つは、廊下に荒川中はなみち「巧みの道」を作って、美術作品や季節感あふれる掲示物を作っていくことです。



この2つの取り組みを通して、荒川中の良き伝統としての「万引き0」と、よきこいソールランを継続していこうと、先生方はもちろん生徒たちも思うようになったのです。

特別に生徒に言うのではなく、なんとなく「万引き0」を続けさせたくて、2階多目的ホールの窓に掲示しました。次の年から、春の全校オリエンテーションや長期休業に入る前の生徒指導

からの連絡で、「万引き0」継続して、荒川中の良い伝統としていこう」と生徒指導担当の先生から生徒に話すようになりました。

生徒の様々な発表の中にも、「荒川中の伝統としての」万引き0」と「よさこい」は続けていこうと出てくるようになってきました。

今年の7月半ばの『社会を明るくする運動』におけるビデオ視聴後の感想でも、多数の生徒が「万引き0」は、継続していきたい」「伝統としていきたい」「自分は破らないようにしたい」と書いていました。

最近では、保護者や地域の方々からも「荒川中は、万引き0」が続いているいいね」と言われるようになりました。

地域や学校、そして保護者や生徒のみんなが、「まずは、10年連続万引き0」を達成していきたい」と考え、意識して取り組んでいます。

【櫻田 文信】

### 第4分会

蟹田の「ひまわり」

西部の「新城まつり」

国道280号沿線の

「かかしロード280」

第4分会では例年同様7月、8月、9月を重点的に取組をした。

7月、担当地域の町村役場に於いて、法務大臣メッセージの伝達を行い、同時に地元会員がシンボルの「社明旗」を設置した。地域(蟹田)では、数年前から月間に合わせ、S I会員が未生から育てた、ひまわりの花が見事に大輪に咲き「ひまわり」と「社明旗」のコラボが、地域の皆さんの目にとまっている。



8月、6回目の参加となる「新城まつり」(西部地域で開催)会場には、十数本の「社明旗」を設置した第4分会副分会長から「新城まつり」実行委員長に法務大臣メッセージの伝達が行われた。第4分会員が地域の皆さんに犯罪や非行防止と罪を犯した人たちの立直りを助け、地域の「一員」として迎える理解と協力を願う「社明」のうちわ、黄色い羽根、ポケットティッシュを配布し、同時に近年問題とされている「危険ドラッグ」など薬物乱用による犯罪防止のため、県薬物乱用防止青森地区協議会のご協力を頂き、子どもを薬物から守るためのチラシを配布、ふれあいの啓蒙活動を行った。

9月、国道280号沿線の地域で開催されている「かかしロード280」に3回目の参加である。

今年のシンボルかかしは青森市名誉市民賞第1号、文化勲章を受章の版画家、棟方志功さん。(北村連明制作)両手をひろげて大空へ羽ばたく「世界のムナカタ」かかしの周囲に「社明旗」が数本設置された。あとはロードかかしの仲間入りである。

オープニングセレモニー会場入口に、「社明旗」を設置、参加の来賓と地域の皆さんとアトラクションの外ヶ浜「蟹田風太鼓」に出演の小、中学生、高校生、皆さんに「社明」うちわ、黄色い羽根、

ポケットティッシュを配布し、「社会を明るくする運動」へのご協力を呼びかけた。

【中嶋 綾子】



### 第5分会

保護司とじゃんけん企画

第5分会では社会を明るくする運動として夜店祭りや社明グッズの配布を行ってきましたが、今年は配布方法にひと工夫してみました。地域の人に愛



されているイメージキャラクタータバサ君の絵入りの祭半天を借りて、地区名が書いてある袷に黒いガムテープを貼り、白マジックで「青森地区保護司会」「保護司とじゃんけん」と書き替えました。その揃いの半天で道ゆく人とじゃんけんをしたのです。勝った人にはうちわを、負けた人にはティッシュを配りました。手製の横断幕を見て「保護司って何だ？」と話している人もいて、PR効果は上がったかなと喜んでいます。

犯罪予防活動として浪岡中学校との連携を図っています。



また、犯罪予防活動として浪岡中学校との連携を図っています。社明旗を学校周辺に10本立てました。9月の地域別定例研修も学校訪問と合わせて同校を会場に行いました。これからも地域との連携を続けていきたいと思えます。

【工藤 みどり】

各分会の皆様、誠にお疲れ様でした。今後の更なるご活躍を祈念致します。

# 今年もアウガ前・青森ねぶたまつりに参加

## 第64回“社会を明るくする運動” 地区広報活動



横断幕で PR (写真右から青森地区保護司会天内会長、青森保護観察所辻所長 他)

**「アウガ前」** 7月12日新町通りアウガ前で黄色い羽根と約1000部ほど用意した社明チラシを配布しました。地区推進委員長の鹿内市長はじめ、保護司会の地域活動部員を中心に、天内会長、更生保護女性会、事務局員がおよそ1時間ほどで配布を終了しました。

**「ねぶたに参加」** 8月4日は、青森市PTA連合会ねぶたの協力を得て、青森ねぶた祭りにも参加、辻青森保護観察所長はじめ、保護観察官、天内会長、地区保護司会有志が横断幕を持つたり、うちわ・社明チラシを配布しました。



アウガ前での広報活動に参加した保護司の皆さん



地区推進委員長の鹿内市長



青森保護観察所 村田法務事務官



青森保護観察所 五十嵐企画調整課長

### ～青森市と函館市の双子都市交流～



## 青函地区保護司会ツインシティ提携合同研修会

日時 平成 26 年 9 月 16 日 (火) ～ 17 日 (水)

会場 青森国際ホテル

**ツイン提携から18年目**

2年毎に実施されている青函地区保護司会ツイン提携合同研修会・交流会が9月16日・17日、青森地区保護司会が幹事となり開催されました。

今年度は青森地区からは50名、函館地区からは26名の参加で、初日は全体会として講演「赤毛のアン」八戸学院短期大学客員教授・三村三千代氏、研修会「青少年の犯罪処遇について」青森保護観察所統括保護観察官・渡辺宏之氏が発表しました。また研修後に分科会にて協議が行われ関連な意見交換の後、グループ毎に発表されました。2日目は、函館地区の皆さんが「ねぶたの家・ワ・ラッセ」見学など自主研修行動でした。



研修会・分科会 3 グループによる討議



交流会でねぶたの囃子を体験する函館地区保護司会の皆さん



研修会・渡辺統括保護観察官



講演・三村 三千代氏



函館地区保護司会 本田会長



# 第64回 社会を明るくする運動 第33回みんなのつどい

日時 平成26年7月6日(日)  
開場 午前10時 開演 午前11時  
会場 リンクステーションホール青森  
主催 青森地区更生保護女性会  
後援 社会を明るくする運動青森地区実施委員会



挨拶する 実行委員長・青森地区更生保護女性会 神会長と来賓の方々



益金贈呈で受け取る 青森地区協力雇用主会 佐藤会長



青函交流で 函館地区保護司会の 本田会長へ花束贈呈



ダンス 平野 剛・滝沢 京香



一輪車 藤聖母園

「広げよう非行を防ぐ地域の輪」「ふれあいと対話が築く明るい社会のテーマの下、第33回みんなの集いが7月6日開催されました。神和子実行委員長の挨拶のあと、青森地区保護司会、青森市社会福祉協議会、青森地区更生保護協会、更生保護法人あすなろ、青森地区協力雇用主会、青森地区BBS会、森の工房ふれあい、青森県更生保護女性連盟に益金が贈呈されました。オープニングは、第1なかよし保育園の鼓笛、そして毎年交流のある函館地区更女会の舞踊など全部で36の発表がありました。



舞踊 十和田地区更女会



舞踊 平内地区更女会



舞踊 鯉ヶ沢地区更女会



フラダンス 大間地区更女会



舞踊 函館南更女会



ダンス 春日井バレエダンスギャラリー (賛助会員)

サポートセンターでは毎週第3金曜日に、青森少年鑑別所の専門官に來所して頂き、保護司との意見交換などのコミュニケーションを取っています。各分会毎に数名集まって頂いて、特色ある保護司支援を推進しています。



サポートセンターでは、保護司支援のため10月6日、企画調整保護司、保護司任命後3〜4年の保護司を対象にニューメンバー座談会を開催しました。保護観察対象者との対応や保護司会への意見など話し合われました。中でも近年は、若い対象者が約束の時間を守らない傾向にあるのではないかとという意見が多くありました。

**青森地区更生保護  
サポートセンター**

平成26年9月1日付

### 新任保護司紹介

保護司の委嘱をうけて



(第4分会)  
竹山 時彦

平成26年9月1日に保護司を拝命して身の引き締まる思いであります。3月までは、30数年間、学校教育を通して児童生徒の教育を実践して参りました。これからは、保護司をはじめ少年補導協力員・陸上競技審判員・町内会役員・青森市体育協会役員として社会教育の面から社会奉仕をして参る所存しております。

今までの学校教育において生徒指導の分掌を受け持つことが多々あったため、犯罪少年に関わる経験もよくありました。そのため、この経験を生かせるような保護司の活動で有りたいたいものだと考えております。  
経験則から人間関係づくりがうまくできない人間は、世の中で自分を信じてくれる人が一人でもいればきちんと生きていけることを実践して参ります。

### あおもり みじか探訪 「堤川～駒込川の散策」

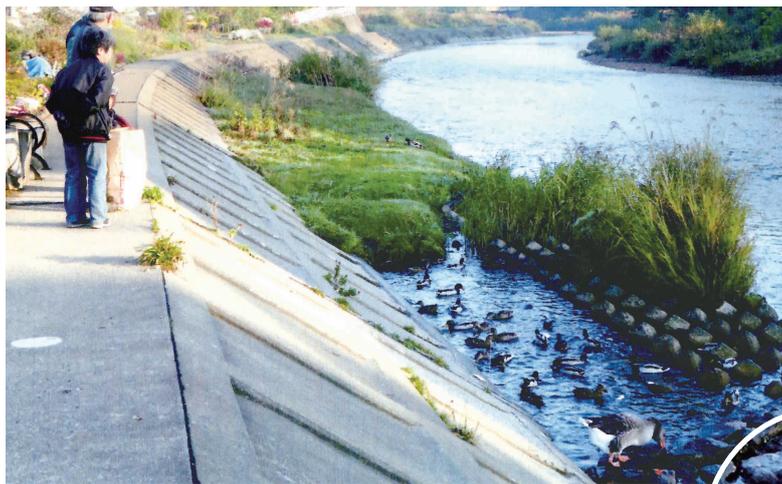


### 毎日のウォーキング 森へ繋がる自転車道

木枯らしの冷たさが日ごとに身にしみる時期となりましたが、会員の皆様はお変わりございませんでしょうか。

私自身のことではありますが日頃から体を動かすのが好きで毎朝、自宅近くの堤川を下流から上流の方面へ川岸の自転車道をウォーキングしております。そこで気づいたのが河川敷の草木は見事に整備され、花々もとてもきれいに咲いていて、それはもうすばらしいの一言なのです。ワンちゃんや芝生の上で遊んでいたりと、野鳥などが来て羽を休めているところも目にして楽しむことができ散歩ですれ違う人に聞いたのですが、この植物はこの辺に住んでいる町会の方々に管理されているそう

です。そして、まだまだ続く自転車道を先に進み、橋を過ぎる頃には住宅なども無くなり、まわりの雰囲気までもがいつぱん



鴨が楽しそうに遊んでいますね



から耳、鼻とまるで五感を刺激しながら体内に入ってくるようにさえ感じられます。このようなことを日々体験できるのは、緑が多く自然に囲まれている青森にいるからだということを感じております。

第2分会 木村 眞次



自転車道を進むと次第に森へ

### 【編集後記】

任期満了に伴う青森市議選(26日投票)が迫っています。今回から定数41が35票に減少する中、40人以上が立候補する乱戦となる見通しです。議会も今度で否決していた市庁舎建て替え関連議案を急決可決しました。すべてには時と場所があるように思います。時は動いています。この機関誌が世に出る頃には当選議員の方々も決まっているでしょう。私たちにもなすべき使命があります。

編集員も委員長はじめ楽しんで意義のある仕事をこなしています。会議で色々な意見が出ますが結構すんなり意見が一致します。不愉快ではありません。特に、同部員で広告ディレクターの樋口修三氏も加わっているのも、編集・印刷・出版までの流れが実にスムーズで鮮やかです。会員の皆様には原稿依頼等でご負担をおかけしておりますが、何卒ご協力をお願いいたします。

広報部員 小林 政英